

中国・四川大地震の被災地、四川省眉山市と交流を続けている備中地域の高山山真言宗寺院住職有志の会「南真会」(二十八力寺)が六月三日、現地で追悼式典を開く。犠牲者へ祈りをささげ、会員が出し合った義援金、文房具を被災家庭に贈る予定。(31面関連)

備中地域の真言宗住職の会

ために文房具やマスクなどの日用品も段ボール箱にまとめ、現地で配布。渡航前には街頭募金も四川省で活動する国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市櫛津)と連携することも検討している。一行は六月二日に上海経由で同省成都市入りし、三日に車で約一時間

の眉山市彭山県に移動して式典。七日に帰国する。計画。同基金日本側責任者の早島町早島、竹井成範、千光寺住職(五)は「たくさん子どもが亡くなり、胸が痛い。小さな活動を積み重ね、心の交流をしたい」と話している。(斎藤章一朗)

被災者と心の交流を

「南真会」は、貧困のため学ぶことができない眉山市の学生を支援しようとして一九九五年、同市彭山県に「南真会教育基金」を創設。毎年数十人の子どもに学資援助などを行っている。

今年も十五人が現地に渡り、十回目となる資金授与式を開くことにしていたが、大地震が発生。同市でも八人が死亡する被害が出たことから華やかな授与式は控え、犠牲者の冥福を祈り、被災者に義援金を贈って哀悼の意を表すことにした。

来月3日、現地で式典 義援金、文房具贈る



被災地の子どもに贈る文房具の準備をする竹井千光寺住職

ミャンマー・サイクロン 広がる支援の輪 四川大地震



丸山室長(左)に寄付金を手渡す小川世話人ら

MDAが九九年、同国メテラ市に開設したことも病院の建設支援や、水害時には寄付などした。

今回の被災報道を受け、元会員が同大学の救援物資輸送費などの支援を計画。新見市内の五十二人から寄せられたお金を、同会元会長の小川勉世話人(モミ)が丸山尚人救済室長に手渡した。

同大学校は八日から医薬品、貯水用タンクなど計三千六百三十六点を被災地に発送。近く第三便として、土のう袋など二千三百点を送る予定。

同大学校は輸送費援助を募っている。問い合わせは、同校救済室(0867-92062)。(大立貴巳)

ミャンマーのサイクロン被災者への救援物資輸送に役立ててもらおうと、新見市の「ミャンマーを支援する哲多の会」が二十二日、公設国際貢献大学校国際貢献大に新見・哲多の会(同市哲多町田淵)に約十五万円を贈った。(5面関連)

同会の前身は、旧哲多町時代の一九九五―二〇〇二年に活動した哲多ミャンマー会。国際医療ボランティアA

物資輸送費15万円寄付

同大学の被災報道を受け、元会員が同大学の救援物資輸送費などの支援を計画。新見市内の五十二人から寄せられたお金を、同会元会長の小川勉世話人(モミ)が丸山尚人救済室長に手渡した。

同大学校は八日から医薬品、貯水用タンクなど計三千六百三十六点を被災地に発送。近く第三便として、土のう袋など二千三百点を送る予定。

同大学校は輸送費援助を募っている。問い合わせは、同校救済室(0867-92062)。(大立貴巳)